

モデル校用

【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書】

(モデル校名 広島市立安佐北中学校・高等学校)

○ 学校の概要 (平成15年4月現在)

広島市立安佐北中学校・高等学校 (併設型中高一貫教育校)									
	中学校			高等学校			障害児 学級	計	教員数
	1年	2年	3年	1年	2年	3年			
学級数	2	0	0	4	5	7	0	18	56
生徒数	80	0	0	159	199	257	0	695	

- 1 本年度当初における「総合的な学習の時間」の課題

中高一貫教育校として、6年間を見通した、総合的な学習の時間の在り方について

 - ・ 中高一貫教育校の発足にあたり、中高6年間を想定し設定した「総合的な学習の時間」のねらいと運用上の問題の整理
 - ・ 中高一貫教育完成年度までの過渡期における運用上の課題

- 2 「総合的な学習の時間」の現状と問題点

本校は昭和59年度に全日制普通科高等学校として発足したが、平成15年度より中高一貫教育校として新たな学校作りに取り組んでいる。平成14年度内に、中高6年間の教育課程を検討する中で、「総合的な学習の時間」についても6か年を想定したものを計画した。

 - (1)中学校の現状と問題点
 - ・ 今年度は1年生のみ2クラスの展開で、6人の教員の協力体制ができ、丁寧な指導ができた。
 - ・ 実際入学した生徒の取組みの進行に合わせて、個々の題材の取組み期間を当初の計画から修正した。
 - ・ 外部人材の効果的な活用方法について、検討する必要がある。

 - (2)高等学校の現状と問題点
 - ・ 平成17年度までは、従来の高校から入学した生徒への指導をすすめている。中高一貫教育校としての準備もあり、事前の立案に十分な時間を割けなかった。そのため、前述の6か年を想定した計画ではなく、高校3年間の計画を別途作成する必要がある。今年度は該当学年の協力のもと、実施内容の修正を行った。
 - ・ 基礎的事項の定着に課題のある生徒があり、教科指導のなかで底上げを図る必要がある。「総合的な学習の時間」とは別に、今年度より授業研究をすすめ、授業改善の取組みを行っている。
 - ・ 校内で体験学習を取り入れることを想定し、高校1年の場合4クラス別々の時間設定とし必要に応じて「総合的な学習の時間」を一斉展開することを考えたが、現状は、少人数授業を実施する等のため時間割が複雑化しており、一斉展開は困難であった。結果、「総合的な学習の時間」において当初の計画を変更することとなった。
 - ・ 外部人材を活用するに当たり、予算執行可能な時期に制約があるため、活動の実施時期の修正が必要になった。

3 平成15年度の取り組み内容

(1)実施内容

① 中学1年前期「ひろしま学」

- ・「身近な地域を探検しよう」：本校の地元の地域を題材にフィールドワークと調べ学習、発表
- ・「地域の自然を探検しよう」：身近な地域の自然について、フィールドワークと調査、発表

② 中学1年後期「ひろしま学」および高校1年前期「ひろしま学」

- ・「広島传统文化に触れる」：江戸時代以降広島で発達した上田宗箇流の茶道を体験学習、茶道にまつわる広島の文化の調べ学習と発表（上田宗箇流の協力を仰ぎ、茶道の作法や茶会を体験した。）

③ 高校1年後期「にんげん学」

- ・「自分の将来の進路を考えよう」：自己の進路について考える資料を与え、インターネット検索等の作業を通じて、将来設計を考える動機付け

(2)当初計画からの変更点

①中学1年

後期の実施内容を変更した。10月～12月の間に「広島传统文化に触れる」「身近な地域の産業を知る」の2項目を設定していたが、「広島传统文化に触れる」のみを実施するように変更した。また、この項目のまとめを1月に実施した。

②高校1年

後期の実施内容について、生徒の実態を該当学年と協議するなかで、自分の進路について考える機会が少ないという点が浮かび上がり、在り方生き方に関する部分を喚起する内容に変更した。

(3)成果と課題

①中学1年（別紙資料1）

- ・現時点では「総合的な学習の時間」に対しおおむね肯定的にとらえている生徒の割合が多い。特に生徒が印象に残った部分としてあげているのは、学校周辺へのフィールドワーク・茶の湯の体験・発表のための工夫の3点に集まる。前二者は体験的な要素が強い内容であり、後者は「自ら課題を見つけ、解決する」部分である。
- ・取組みのなかで、情報機器の活用といった方法も考えられる。
- ・6年間にわたる計画については、生徒の成長を見ながら今後改善の余地がある。

② 高校1年生（別紙資料2）

- ・回答からは「総合的な学習の時間」に対し肯定的な割合が多いが、中学生に比べれば少ない。生徒に受け身的な態度が感じられる点は「総合的な学習の時間」だけではなく他教科でも共通した課題であり、全校的な授業改善の取組みをすすめるなかで解決していきたい。
- ・生徒が印象に残った部分としてあげたのは、茶の湯体験とインターネットによる職業検索が多かった。後者は、「総合的な学習の時間」と同時期に大学や専門学校の人を本校に招き話を聞かせる取組みをしており、それとの関連で印象が深まったとも考えられる。
- ・学校行事や教科学習との関連を工夫することが、「総合的な学習の時間」を生かすことにつながる。

4 平成16年度に向けての取組み予定

(1)見直し視点

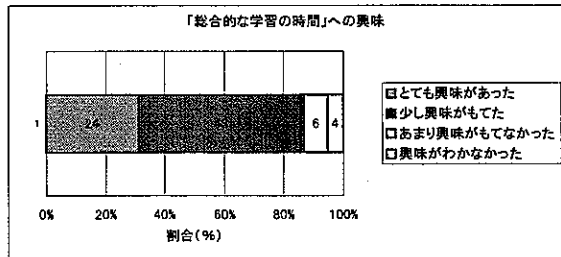
- ・「総合的な学習の時間」それぞれの取組みのねらいを確認する。

- ・ 中高一貫教育の完成年度までの過渡期にあたる安佐北高等学校入学者に対する実施内容の再検討をする。
- ・ 当初、郷土広島を題材に「課題を見つけ、解決する力を養う」ことを目標に取り組みをすすめてきた。しかし、今後、生徒に在り方生き方を考えさせる取組みが必要になってくるという認識から、カリキュラムの見直しをすることにした。当初計画の中に、キャリア教育の観点を取り入れた計画に変更することを考えている。

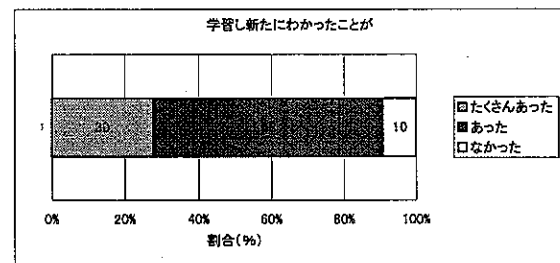
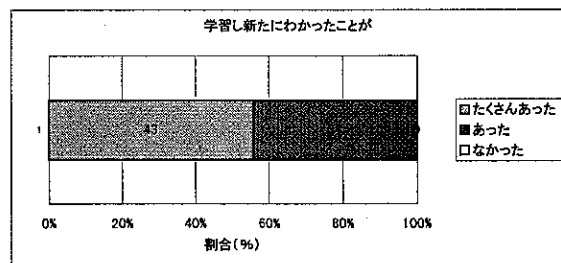
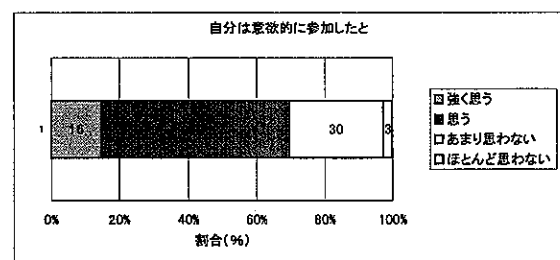
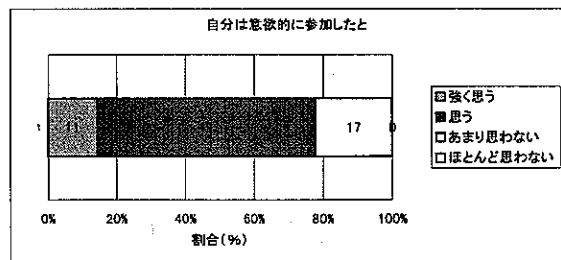
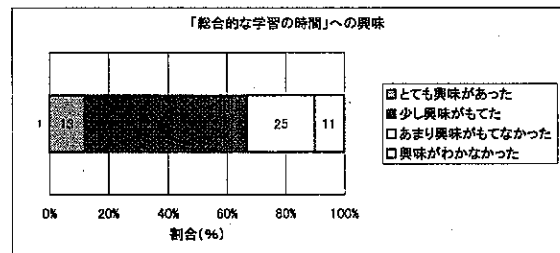
(2)取組み予定

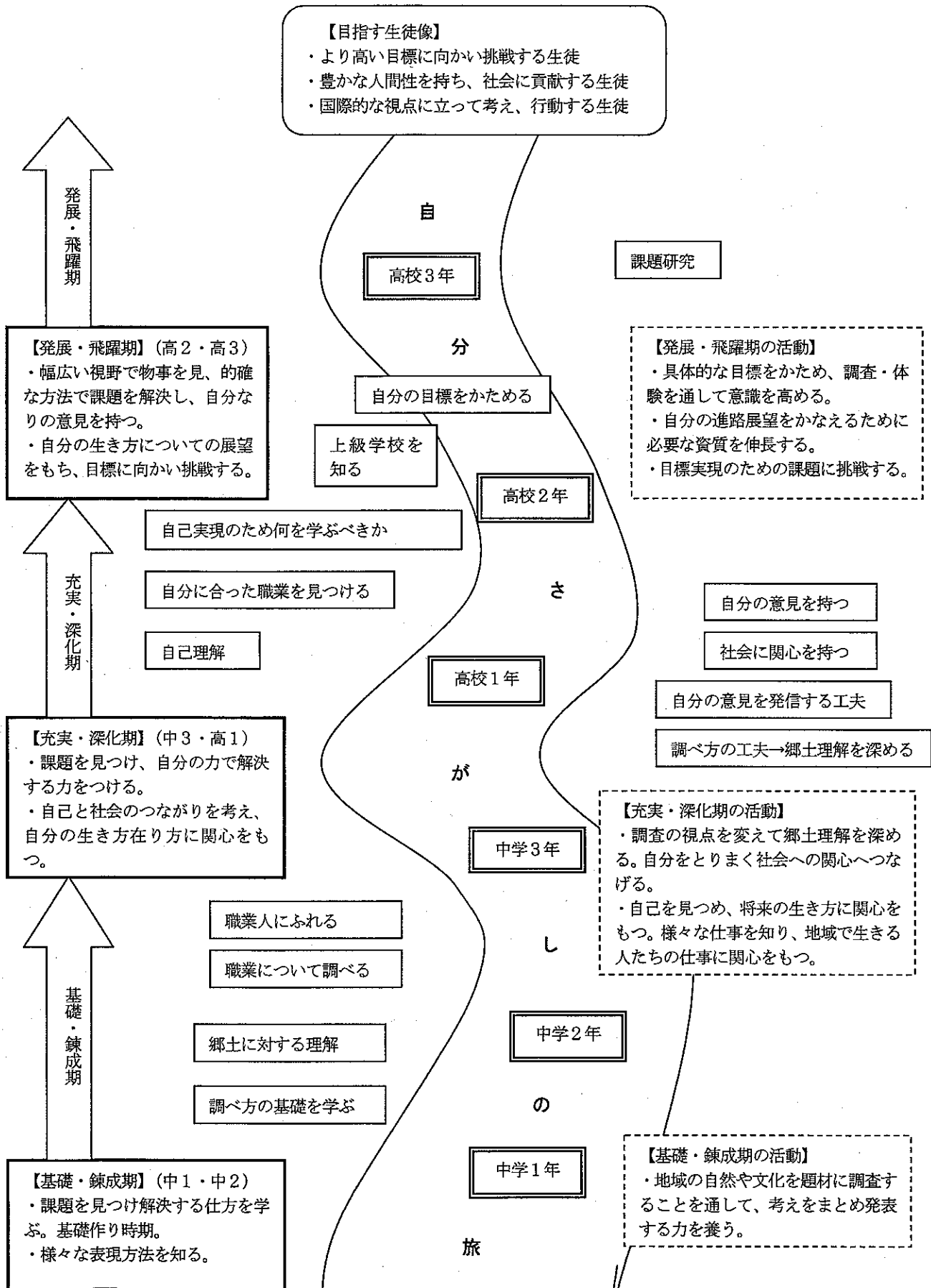
- ・ 現在、中高6か年にわたるカリキュラムの見直し作業を行っているところである。(別紙資料3は、6か年の概要である。)
- ・ 平成16年2月 カリキュラム見直し (研究部)
- ・ 平成16年4月 カリキュラム改善の検討 (中・高)

↓資料1 「総合的な学習の時間」への意識
(中学1年、平成16年3月)



↓資料2 「総合的な学習の時間」への意識
(高校1年、平成16年3月)





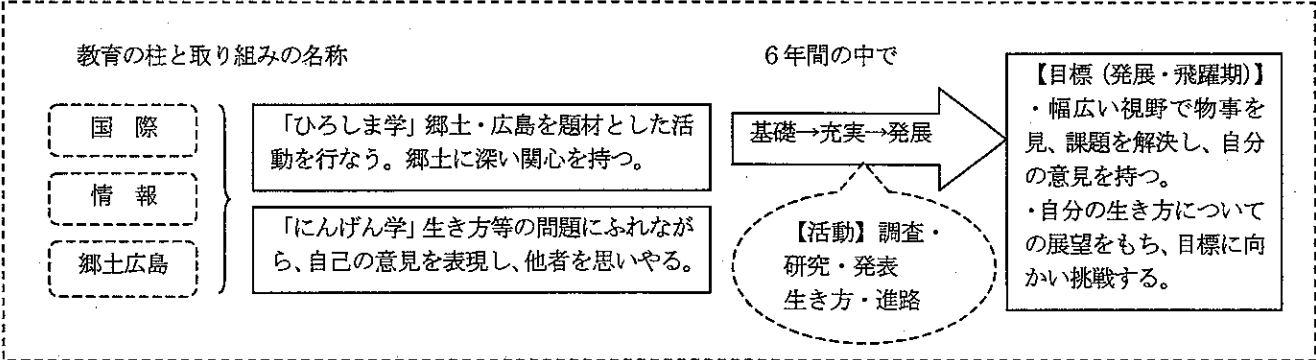
【目指す生徒像】

- ・より高い目標に向かい挑戦する生徒
- ・豊かな人間性を持ち、社会に貢献する生徒
- ・国際的な視点に立って考え、行動する生徒

【安佐北中学校・高等学校における「総合的な学習の時間」】

- ・自ら課題を見つけ、考え、解決しようとする過程を通して、幅広い視野を持つとともに、自己を豊かに表現する力を養う。
- ・自己と社会とのかかわりを考えるとともに、自分の生き方についての考えをまとめ、課題に向けて挑戦する態度を養う。

研究主題 「中高一貫教育校として、6年間を見通した、総合的な学習の時間の在り方」



教科学習との関連

【日々の取り組み】

- ・基礎・基本の定着を図り、学習意欲の向上を目指す。
- ・小人数指導の実施により、きめ細かな学習指導を行う。
- ・授業研究を行い、指導方法を研鑽し授業改善を目指す。

各教科の育てたい資質・能力（主要なもの）

教科	各教科のねらい
国語	・国語を的確に理解し適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め進んで表現する ・思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
社会 (地歴公民)	・諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、生活・文化の地域的特色や現代の社会についての理解と認識を深める。 ・社会に対する関心を高め、人間としての在り方生き方について考える力と自覚を育てる。
理科	・自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てる。 ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
情報 (技術家庭)	・実践的・体験的な学習活動を通して、コンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための能力と態度を育てる。
芸術	・対象を深く観察し、よさや美しさなどを感じ取り、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力を身に付ける。 ・表現の技能を身に付け、多様な表現方法に関心をもち、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
家庭科	・人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・人間生活と社会とのかかわりについて理解し、家庭や地域の生活にすすんで参加する態度と能力を育てる。